

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3470205646		
法人名	社会福祉法人 藤愛会		
事業所名	グループホーム ハレクプナ		
所在地 (電話番号)	広島市西区山手町19番3号 (電話) 082-503-0081		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成19年12月17日

【情報提供票より】(19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	18人	
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 人, 常勤換算 13 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	76 歳	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤山内科・小田クリニック・梶川病院・平松整形外科消化器科病院・森田歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームハレクプナは、開所時より「尊厳を受けている高齢者・祖父母・親族の家」として、関連の福祉事業所の協力を得てホーム独自の理念の下で、全職員が家族・地域・スタッフとの三位一体のつながりを大切にしながら支援を行っている。常日頃においては、利用者と職員が共に散歩などし、外出した時には地域の方と気さくに挨拶を交わし、またさりげない見守りをいただいている。また、二ヶ月に1度、町内のあゆみ会(65歳以上の会)の方達の昼食作りにホームを開放し、職員も積極的にお手伝いをするなどしており、事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係が築かれている。これらにより、利用者が地域で暮らし続けることへの支援と協力体制が図られている。全職員は、利用者一人ひとりに向き合いながら地域で暮らし続けることへの支援を明るく、元気に自然体で行っている。このことにより、利用者の方が生き生きとして活気に満ちた表情をされていると感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、特に改善課題はなかったがその後の取り組みとして、家族、地域との関わりを今以上に強固なものにする取り組みが随所に伺われた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、自己評価の意義や目的について絶えず話し合いを行い取り組んでおり、これらを質の向上につなげるように努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の場では、ホームからの報告等を初めとし、参加者からの積極的な意見や要望が交わされており、これらを汲み取り主とした会議での意見などとし、サービスの向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は、家族とのつながりを大切にしながら、安心して意見等を表せる機会を設け、特に外部者の意見や要望等は前向きに受け止め、質の向上に活かしていく取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方に事業所で開催される行事等に参加を求め、また利用者と職員が共に地域の行事に出来るだけ参加をし、常日頃からお隣とおしの普通の関わりを実践している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義に基づいて、全職員で話し合ってホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃からミーティングの際などには、理念について唱和をするなどして意識付けの徹底を図っている。		職員全体で話し合いをしてホーム全体の理念を掘り下げて、例えばユニット毎の年間目標を策定して具体的なケアの意見統一を今以上に図られることが望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段の暮らしの中で、近隣の人たちへの声かけや行き来のきっかけづくりを行いながら、また地域の行事には出来るだけ利用者と職員は共に参加をしながら地域との交流はお隣どおしの関係や交流となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員など関係者全員で、この評価の目的や意義について話しあって取り組んでおり、明らかになった課題から順に質の向上に活かすように努められている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場では、ホームからの現況報告等を行い、参加者から積極的に意見や要望をいただきながら質の向上に活かしている。また、自己評価への取り組みと課題については運営推進会議の参加者に働きかけてモニター役になっていただくなど要望し、協力を求めながら評価の効果を高めるように検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃から、ホームの広報紙を市担当窓口に届けたり、事業所の現状やケアサービスの取り組みを折りに触れて伝えるなどして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	それぞれの家族には、月に二回程度ホームより定例的に書面で近況報告を行い、他に電話等できめ細かく様子を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見や要望等は前向きに受け止めて、ミーティングの際などで要因などをよく話し合い、質の向上につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修等には、出来るだけ多くの職員が参加できるようにしており、また研修等の報告は全職員が閲覧できるように体制がなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内での近隣グループホームとは、日々のサービスなどに役立つ実践的な交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に入居前にはホームをまず見学してもらことから始め、本人と家族の納得を大切にしながら安定的な利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の場面で、支援する側、支援される側にとらわれない関わりで努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、常日頃から利用者一人ひとりに向かい合いながら、おかげさま・お互い様・感謝の気持ちを大切に支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の視点から見た介護計画ではなく、利用者主体の暮らしを反映した介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間での見直しはもちろん、本人や家族の要望や変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向、本人にとって一番良い方法を家族などを交えて話し合い、対応方針を定め事業所が対応し得る最大のケアを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの際に、個人情報保護の理解や職員の意識向上と対応の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常日頃から、職員は利用者の出番や役割を見出しながら利用者のペースにそって、見守りながら一緒に生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業は利用者とともに職員が行い、そして一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入居前の生活習慣や希望にあわせた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常日頃から利用者の生活の場面の中から、活力や楽しみなど、その人で出来る役割を見つける支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人のその日の気分と状況に応じて、心身の活性化につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害をよく理解しており、職員間の声かけや連携プレーにより恒常的には鍵をかけない支援体制で支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いざという時に地域の方々の協力が得られる体制が構築されており、非常食等の備蓄や避難訓練等も定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量は大きめに把握しており、毎日チェック表に記録し、何時でも全職員が情報を得られるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が少しでも多くの時間を過ごせるようリビングなどの共有空間は、五感への刺激に配慮しながら居心地のよさや心身の活力を引き出す場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使い慣れた日用品や写真などを持ってきてもらい、利用者の居心地のよさに配慮している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ハレ・クプナ(プルメリア)

評価年月日 平成 19年 10月 29日

記入年月日 平成 19年 10月 29日

記入者 職 管理者 氏名 坂田 由紀子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	入居者の方の生活を支えていくにあたり、3つの理念を掲げ取り組んでいる。(理念右記)		(理念) 家族・友人・地域・スタッフとのつながりを大切にしていきましょう 一人ひとりが持っている力を発揮し、いきいきとした生活を送りましょう 家庭的な雰囲気の中で安心して笑顔で暮らしましょう
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を意識し、取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に理念の説明をしているが、その後あらためて説明は行っていない。ケアの方法(ケアプラン)や取り組む方向にて示し、理解を得ている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩中に近隣の方と挨拶や軽く会話をかわして関係をつくる努力をしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事への参加、事業所でのクラブ活動へ地域の方が参加されるなど交流を持っている。職員は町内のために暮らそう会(いきいきサロン)やあゆみ会(昼食会)のお手伝いに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	知識を身につけて頂くための介護教室やリフレッシュのための音楽会などを企画し、ご案内している。また、フラダンス教室やパッチワーク教室への参加も募り、入居者の方と一緒に趣味を楽しむ時間も提供している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解しており、全てではないが、改善に取り組む努力はしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後、運営推進会議を活かし、自己評価への取り組みについても話し合っていく予定。 運営推進会議の報告（ご家族の意見等）を毎回職員へも伝えてくれているのでサービス向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	書類や新聞は窓口まで持参するようにしている。 疑問があれば積極的に質問するようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	中広地域包括支援センターの方に協力をお願いし、ご家族や地域の方が制度について学ぶ機会を持ったが、職員が学ぶ機会をまだ持っていない。		制度の必要性を感じており、職員も是非、制度について学びたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加できる人数に限られるため、参加できなかった職員は研修報告にて学んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明を行い、不明な点の有無を尋ねるようにしている。書類はしっかり目を通して頂くようお願いしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ご家族の面会時、ご本人が何かおっしゃっていなかったか、面会時の様子等を尋ねるようにしている。ヤクルト販売やボランティアなど外部者の来訪もあり、機会を設けている。入居者の方と話す際、意見を引き出せるような話しかけに努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月2回(請求書送付時、領収書送付時に)近況報告を行っている。場合によっては電話にて報告を行っている。金銭管理については月1回領収書送付時に通帳のコピーをお渡ししている。金銭を自己管理されている方はだいたいの購入品・金額を把握している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人の前では聞きたくても聞けないこともある。家族会や運営推進会議、ケアプラン意見書にて意見を聞き取り組んでいる。面会時に気になることはないかご家族へ尋ねるようにしている。(1階にて)事業所内に意見箱を設置し、投函していただける体制もとっている。外部へも相談していただけるよう苦情の窓口を重要事項説明書へ記載している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	細かいところまで意見を言えている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	対応ができるよう考慮している。前もって行事が決まっている場合は、配慮し、勤務調整している。職員も協力して行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の大きな入れ替えはできるだけ避け、時期をずらす等の配慮をしている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修への参加を呼びかけたり、法人外研修へも参加できるよう研修案内を貼り出したりしている。 グループホームだけでなく、他部署でも勉強し、一人ひとりのレベルアップがはかれるよう異動も考えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者はグループホーム交流会に参加している。 職員は個人的に同業者と意見交換の機会を持っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員間で遠慮せず休憩をとろうと声をかけあっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	グループホームにて一緒に昼食を食べたり、外出の手伝いをしたりし、職員と会話する機会を持つことで職員個々の把握に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族の話が主になっており、ご本人の話はあまり聴けていない(入居に抵抗がある場合等は特に)。同建物内のデイサービスを利用して頂きながら、職員や入居者の方と関係を築き、グループホームへの入居を考えて頂くケースもある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の主訴をよく聞き、どのような方法でサポートできるか、環境の変化によるご本人へのダメージ軽減の協力等、説明している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況、ニーズを見極め、他サービスの説明も含め支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族だけでなく、できるだけご本人にも見学して頂けるようお話している。 同施設内のデイサービスより利用を開始し、グループホーム入居へと段階をおう方法も考えながら相談に応じている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の気持ちを理解しようと努めている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際、職員はご家族とお話をするよう心がけており、ご家族に協力をもとめている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族が行事等へ参加して下さることによって、ご本人とご家族との関係をより知ることができ、より良い関係づくりへとつなげることができている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人とのつながりは支援に努めているが、馴染みの場所についてはお連れすることが難しいことがある。ご家族の希望で職員が立ち入れない部分もある。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>時にはあえて距離をおいて離れて見守ることもあるが、孤立しないように努めている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>そういったケースが今後あれば、手紙を出す等方法を考え、つながりを大切にしていきたい。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご本人の希望等、把握に努めている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>全ては把握できていないが、職員はこれまでの暮らしの重要性を理解しており、ご本人やご家族からの話を記録し、把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>職員同士で日々状況の伝達を行っており、状況把握に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	可能なときはご家族にカンファレンスへ参加していただき、話し合いを行っている。 ケアプラン意見書を前もってご家族へ郵送し、ご家族がカンファレンスへ参加できなくてもご家族の意見をうかがいケアプランを作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化が生じたときには見直すことを意識しており、そのように対応している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	意識して記入している。モニタリングも行ない活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望があれば出来るよう支援していきたい。事業所で対応できることなのか、ご家族の協力が必要なのか、外出先への協力依頼が必要なのか等を判断し、支援していきたい。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方による理美容やハーモニカ演奏・趣味活動、消防署の協力による消火訓練、避難訓練など日々の生活を支えていただいている。小学校より運動会への招待もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて、連絡を取り合い支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	介護教室や運営推進会議などを通じ、ご本人・ご家族へアドバイスをいただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医の継続や、希望の病院があれば、受診の支援をしていく旨を伝えている。事業所の提携病院を受診してみても合わない場合は、他の病院を受診することも検討している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	先生との関係が出来ているため、声の掛け方や触れてはいけない話題など入居者の方の状況を詳しく伝え、協力してもらうことで入居者の方は安心して治療を受けることができている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師を採用しており、健康管理や医療活用の相談がいつでも出来る状態である。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	施設で生活できる（対応できる）レベルを説明し、出来るだけ早期に退院出来るよう支援している。 出来るだけ面会に行き、ご本人のダメージ軽減に努め、回復状態を病院関係者に確認している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>心身状態の変化についてはご家族へ報告しており、ご本人にとって一番良い方法を話し合っている。主治医とも医療の必要性和グループホームでの生活について助言していただいている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医より助言していただきながら施設で「できること・できないこと」を見極めご家族へも伝えるようにしている。職員にも看護師を採用し、終末期まで視野に入れ支援している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>環境の変化によるダメージを防ぐ為に退居後も協力していきたいが、退居された方に会いに行ったり手紙を書いたりすることでご本人が混乱されるのではと行動に移せていない。</p>		<p>退居後も関係者間で連絡をとるよう心がけ、会いに行くと約束していたがご本人は待っていらっしゃるのか、会いに行っても大丈夫なのか等情報交換を行ないたい。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録の管理、書棚の施錠等不十分である。プライバシーを損ねないように意識しているが、(小声で)言わざるを得ない時もある。</p>		<p>申し送りノートを記入後ケース記録は片付けるよう一人ひとりが気をつける。他者の目にふれるような場所(畳やテーブル等)には置かないようにする。書棚の施錠も徹底する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかる力に合わせて本人の希望を聞くようにしている。自分で決めることが難しい方もいらっしゃるので、判断し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できることをできないと言っていないか。散歩等、出発をお待たせしていないか。</p>		<p>本当にいま支援出来ないことなのか(今散歩にお連れすることはできないのか等)を余裕を持って判断し、希望にそえるよう支援していきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご希望の方の毛染めを支援したり、化粧を毎日できるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しんで食事ができるよう席を配慮している。希望や好みを聞き、パン食を用意したり、メニューをかえたりし提供している。片付けはやりたい時に手伝ってもらえるようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の嗜好に合わせて飲み物等を提供している。煙草は喫煙場所を設けている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよく排泄出来るよう一人ひとりの状況をみながら支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴が嫌いな方は入浴間隔を見て声をかけているが、時間帯やその日の気分にも配慮し、無理には誘わずご本人の気持ちを大切にしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状況に応じて支援している。 ご自分で休息をとられている方もいらっしゃる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	支援できている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	使えるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車の使用時間帯はデイサービスとの関係で限られる日もあるが、お誘いするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	野球観戦や遠出の行楽等機会は作っている。今後も機会を増やしていきたい。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や暑中見舞いは声をかけているがあまり希望がない。		手紙や荷物が届いたときはお礼の電話をしてみてもどうか。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気持ちよくお迎えしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員も理解し、取り組んでいる。		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	見守りのできるときは鍵をかけないようにしている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、危険も予測している。		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	入室時はノックをしており、いきなり入室しない。 職員同士で情報交換を行ない、日々の状態・安全に配慮している。		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	位置を移動したり、見守りを強化したりし危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	食事形態の配慮や薬の確認を行う等、知識の範囲で対応している。		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	火災時の訓練や救急対応についての研修は行なっているが、実施回数が少なく一人ひとりが詳しく訓練できない。		少人数でいいので確実に、定期的に訓練をしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	非常食を常備している。 事業所の存在は理解されており、地域の人々の協力が得られるようになっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒の危険がある方でも、車椅子にしばらくは歩かせるのではなく見守りをしながら自由に歩いてもらえるように対応していることについて、ご家族にも説明し理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は体調の変化に敏感に反応し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の把握に努めている。不安なときはピルブックにて確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取や運動など日々取り入れているが、便秘気味の人はいる。排便状態の把握は出来ている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	心身状況も変化しており、口腔ケアの支援について見直しが必要である。		見直し実施済。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	支援できている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	手洗い・うがいの実施に努めている。 汚物処理の方法も取り決めがある。 口腔ケア時等手袋を着用する等気をつけている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は消毒をしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のドアを全開にしており出入りしやすい。 花を置いたり，正月には門松を設置するなど工夫をしている。		夕方や曇りの日など、フロアの玄関の電気をつけると明るくて良いのではないが。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カレンダーや壁への掲示物にて季節感が出せている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳やソファを設置することで、居場所の確保に役立っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地よく過ごせている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温調節や換気に努めている。部屋によって温度が違うので配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり等を設置し、身体機能を活かして安全に生活が送れるように配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	いまのところ混乱はみられていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに干し柿をつるし見て楽しんだり、屋上の植木やプランタの水遣り、畑で作業を楽しむなど、建物の外周りも活かされている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ハレ・クプナ(ハイビスカス)

評価年月日 平成 19年 10月 25日

記入年月日 平成 19年 10月 25日

記入者 職 管理者 氏名 坂田 由紀子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	入居者の方の生活を支えていくにあたり、3つの理念を掲げ取り組んでいる。(理念右記)		(理念) 家族・友人・地域・スタッフとのつながりを大切にしていきたい 一人ひとりが持っている力を発揮し、いきいきとした生活を送りましょう 家庭的な雰囲気の中で安心して笑顔で暮らしましょう
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を意識し、取り組んでいる。 ケアプラン作成時にも理念に戻り、意見を出し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時に理念の説明をしているが、その後あらためて説明は行っていない。ケアの方法(ケアプラン)や取り組む方向にて示し、理解を得ている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩中に近隣の方と挨拶や軽く会話をかわして関係をつくる努力をしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事への参加、事業所でのクラブ活動へ地域の方が参加されるなど交流を持っている。職員は町内のために暮らそう会(いきいきサロン)やあゆみ会(昼食会)のお手伝いに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	知識を身につけて頂くための介護教室やリフレッシュのための音楽会などを企画し、ご案内している。また、フラダンス教室やパッチワーク教室への参加も募り、入居者の方と一緒に趣味を楽しむ時間も提供している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義を理解しており、評価後、意識して取り組んでいる。		改善計画シートを活用し、具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	意見交換は行っているが、評価への取り組み状況等についての報告や話し合いは行っていない。		今後、運営推進会議にて評価への取り組み状況等についての報告や話し合いを行っていきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	書類や新聞は窓口まで持参するようにしている。疑問があれば積極的に質問するようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	中広地域包括支援センターの方に協力をお願いし、ご家族や地域の方が制度について学ぶ機会は持ったが、職員が学ぶ機会をまだ持っていない。		制度の必要性を感じており、職員も是非、制度について学びたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加できる人数に限られるため、参加できなかった職員は研修報告にて学んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明を行い、不明な点の有無を尋ねるようにしている。書類はしっかり目を通して頂くようお願いしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ご家族の面会時、ご本人が何かおっしゃっていなかったか、面会時の様子等を尋ねるようにしている。ヤクルト販売やボランティアなど外部者の来訪もあり、機会を設けている。入居者の方と話す際、意見を引き出せるような話しかけに努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月2回(請求書送付時、領収書送付時に)近況報告を行っている。場合によっては電話にて報告を行っている。金銭管理については月1回領収書送付時に通帳のコピーをお渡ししている。金銭を自己管理されている方はだいたいの購入品・金額を把握している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご本人の前では聞きたくても聞けないこともある。家族会や運営推進会議、ケアプラン意見書にて意見を聞き取り組んでいる。面会時に気になることはないかご家族へ尋ねるようにしている。(1階にて)事業所内に意見箱を設置し、投函していただける体制もとっている。外部へも相談していただけるよう苦情の窓口を重要事項説明書へ記載している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	細かいところまで意見を言えている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	対応ができるよう考慮している。前もって行事が決まっている場合は、配慮し、勤務調整している。職員も協力して行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の大きな入れ替えはできるだけ避け、時期をずらす等の配慮をしているが、馴染みの関係になるまでは少なからず影響は出ている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修への参加を呼びかけたり、法人外研修へも参加できるよう研修案内を貼り出したりしている。 グループホームだけでなく、他部署でも勉強し、一人ひとりのレベルアップがはかれるよう異動も考えている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者はグループホーム交流会に参加している。 職員は個人的に同業者と意見交換の機会を持っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個々でストレス解消をし、切り替えをしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>グループホームにて一緒に昼食を食べたり、外出の手伝いをしたりし、職員と会話する機会を持つことで職員個々の把握に努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご家族の話が主になっており、ご本人の話はあまり聴けていない(入居に抵抗がある場合等は特に)。同建物内のデイサービスを利用して頂きながら、職員や入居者の方と関係を築き、グループホームへの入居を考えて頂くケースもある。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の主訴をよく聞き、どのような方法でサポートできるか、環境の変化によるご本人へのダメージ軽減の協力等、説明している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況、ニーズを見極め、他サービスの説明も含め支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族だけでなく、できるだけご本人にも見学して頂けるようお話している。 同施設内のデイサービスより利用を開始し、グループホーム入居へと段階をもう方法も考えながら相談に応じている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者のためを思ってやったことが、ご本人のためになっていないのではないかと仲の良い利用者より指摘を受け、ケアの方法がまちがっていると気づかされることもある。(例：忘れるからとメモ書きを残すことで、その方はメモを見るたびに同じことを思い出して周囲の人に何度も聞いてこられる。) これからは職員が気づかないこと、知らないことを教えてもらいながらお互いに支えあって暮らしていきたい。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人とご家族との距離も関係していると思うが、職員はご家族と協力しながらご本人を支えていくことをもっと意識し、働きかけていかなければいけない。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	より良い関係を維持できるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係を維持できる方には支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	うまく関わり合えるよう職員が間に入ったり、一人では関われない方には一緒に関わるよう工夫している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関わりを必要とされるかどうかの判断から慎重に考えて方法を決めたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を話の中でつかみ、なるべく本人の気持ちにそえるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	全ては把握できていないが、職員はこれまでの暮らしの重要性を理解しており、ご本人やご家族からの話を記録し、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の状況を記録し、職員それぞれが把握するよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	可能なときはご家族にカンファレンスへ参加していただき、話し合いを行っている。 ケアプラン意見書を前もってご家族へ郵送し、ご家族がカンファレンスへ参加できなくてもご家族の意見をうかがいケアプランを作成している。 ご本人との話し合い・確認ができていない。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直しの必要があるときは対応している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録し、モニタリングも行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望があれば出来るよう支援していきたい。事業所で対応できることなのか、ご家族の協力が必要なのか、外出先への協力依頼が必要なのかな等を判断し、支援していきたい。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方による理美容やハーモニカ演奏・趣味活動、消防署の協力による消火訓練、避難訓練など日々の生活を支えていただいている。小学校より運動会への招待もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて、連絡を取り合い支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	介護教室や運営推進会議などを通じ、ご本人・ご家族へアドバイスをいただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医の継続や、希望の病院があれば、受診の支援をしていく旨を伝えている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	先生との関係が出来ているため、声の掛け方や触れてはいけない話題など入居者の方の状況を詳しく伝え、協力してもらうことで入居者の方は安心して治療を受けることができている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員に看護師を採用しており、健康管理や医療活用の相談がいつでも出来る状態である。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	施設で生活できる（対応できる）レベルを説明し、出来るだけ早期に退院出来るよう支援している。 出来るだけ面会に行き、ご本人のダメージ軽減に努め、回復状態を病院関係者に確認している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>心身状態の変化についてはご家族へ報告しており、ご本人にとって一番良い方法を話し合っている。主治医とも医療の必要性和グループホームでの生活について助言していただいている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医より助言していただきながら施設で「できること・できないこと」を見極めご家族へも伝えるようにしている。職員にも看護師を採用し、終末期まで視野に入れ支援している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>環境の変化によるダメージについて説明し、防ぐための協力について情報交換をしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録の管理、書棚の施錠等不十分である。プライバシーを損ねないように意識しているが、(小声で)言わざるを得ない時もある。</p>		<p>申し送りノートを記入後ケース記録は片付けるよう一人ひとりが気をつける。他者の目にふれるような場所(畳やテーブル等)には置かないようにする。書棚の施錠も徹底する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかる力に合わせて本人の希望を聞くようにしている。自分で決めることが難しい方もいらっしゃるので、判断し支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来るだけ希望にそえるよう支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人の希望通りに努めている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備（配膳）から片付けまで利用者本位で流れており、職員は手助けをしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の希望のものをその場その場で確認し、提供するようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよく排泄出来るよう一人ひとりの状況をみながら支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の方は毎日1番にゆっくり入浴したいという気持ちがある為、2日に分け順番を決めて入っていただくように支援しているが、毎日入りたいという不満は持っていらっしゃる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	望む通りに支援できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	気晴らしに外出したり、出来るだけ支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している方は支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車の使用時間帯はデイサービスとの関係で限られる日もあるが、お誘いするようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行楽等の機会を持ち支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望にそって支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気持ちよくお迎えしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員も理解し、取り組んでいる。		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	見守りのできるときは鍵をかけないようにしている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、危険も予測している。		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	入室時はノックをしており、いきなり入室しない。職員同士で情報交換を行ない、日々の状態・安全に配慮している。		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	位置を移動したり、見守りを強化したりし危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	食事形態の配慮や薬の確認を行う等、知識の範囲で対応している。		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	火災時の訓練や救急対応についての研修は行なってはいるが、数が少ない。		少人数でいいので定期的に訓練をしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設の存在は理解されており、地域の人々の協力が得られるようになっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	心身状況のリスクも踏まえてご家族と話し合いの場を持っており、ご本人にとって心地良い暮らしになるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員は体調の変化に敏感に反応し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の把握に努めている。不安なときはピルブックにて確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘の予防について考え、水分摂取や運動等を働きかけ取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	出来ていない方もいる。		入浴時に声をかけてみる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	支援できている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	インフルエンザやノロウイルスについては取り決めがあるが、肝炎についてはもう少し意識した方がよい。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は消毒をしている。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のドアを全開にしており出入りしやすい。 花を置いたり、正月には門松を設置するなど工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁への掲示物にて季節感が出せている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳やソファを設置することで、居場所の確保に役立っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地よく過ごせている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温調節や換気に努めている。部屋によって温度が違うので配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり等を設置し、身体機能を活かして安全に生活が送れるように配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ポータブルトイレを設置し、居室にいる時に排泄場所がわかるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を楽しんだり、ベランダに朝顔のプランタを置き水遣りをしていただいたりし、活かしている。		